

東海東京プレミア・セレクション
 先進国 10 通貨インデックス・ファンド(円建て) (“通貨のちから”)
 受益者様各位

2013 年 2 月 15 日
 バークレイズ・バンク・ピーエルシー
 投資銀行部門

先進国 10 通貨インデックス・ファンド(円建て) (“通貨のちから”) の償還について

拝啓

受益者の皆様におかれましては益々ご清栄のことと存じます。平素は、「東海東京プレミア・セレクション - 先進国 10 通貨インデックス・ファンド(円建て) (“通貨のちから”）」(以下、「本ファンド」)をご愛顧賜り、誠にありがとうございます。

さて、ご投資いただいております本ファンドは、一口当たりの純資産価格が 2013 年 2 月 15 日付けで 7,090 円(当初一口当たり純資産価格:10,000 円)、また純資産残高が同日時点で約 1 億 3,500 万円となっております。

本ファンドの目論見書においては、ファンドでの効率的な運用を維持するのに一般に必要とされる資産残高を鑑み、純資産額が 10 億円を下回る場合には終了することがある旨の規定があります。本ファンドは、受益者の皆様へ投資機会を提供すべく運用を続けてまいりましたが、運用資産の減少に伴い固定費用の負担が相対的に大きくなり、それを上回る運用益も見込みにくい中、受益者様の利益のためにも、早期償還手続きに入らせていただきたく存じます。

つきましては、以下に予定される最終評価日において、全ての受益証券が換金される予定です。

償還スケジュールにつきましては、下記の予定をご覧ください。最終評価日より前の取引日における通常のご買戻しによりご換金いただくことも可能です。2013 年 3 月 13 日までに買戻しのお申込みをいただかなかった場合は、2013 年 3 月 22 日の最終評価日をもって換金される予定です。

《本ファンド終了スケジュール予定》

最終評価日	最終国内約定日	最終受渡日
2013 年 3 月 22 日	2013 年 3 月 25 日	2013 年 3 月 28 日

《通常買戻しスケジュール》

買戻し受付期間	評価日(取引日)	国内約定日	受渡日
2013 年 2 月 21 日～2013 年 2 月 27 日	2013 年 3 月 1 日	2013 年 3 月 4 日	2013 年 3 月 7 日
2013 年 2 月 28 日～2013 年 3 月 6 日	2013 年 3 月 8 日	2013 年 3 月 11 日	2013 年 3 月 14 日
2013 年 3 月 7 日～2013 年 3 月 13 日	2013 年 3 月 15 日	2013 年 3 月 18 日	2013 年 3 月 22 日

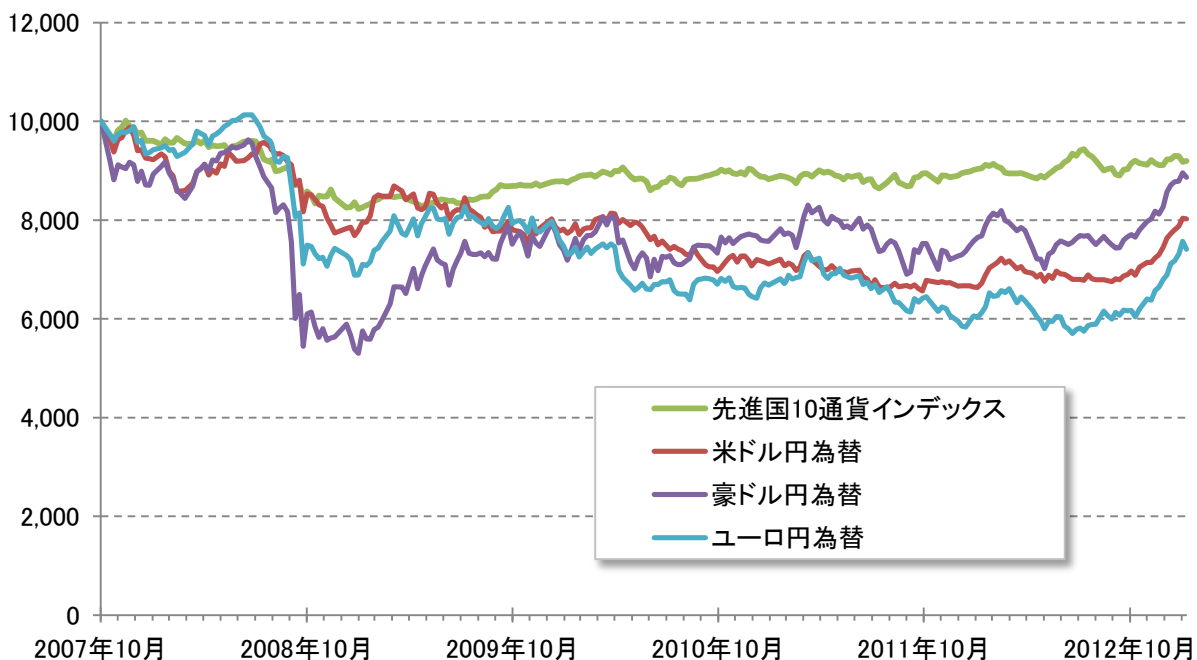
このような事態に至るまでの状況をご説明申し上げます。

本ファンドの運用戦略は、先進国 10 通貨の為替ペアによる運用であり、その根幹には、低金利の通貨で借入を行い高金利通貨に投資するという、いわゆる「キャリートレード」の概念があり、本ファンドでは、単純なキャリートレードよりもリスク分散して通貨ペアに配分する戦略をとってきました。

本ファンドの当初設定日は 2007 年 10 月 31 日と、米国サブプライム住宅ローン危機および世界的な金融機関の信用収縮の時期と重なっており、また 2008 年にはリーマン・ショックに代表される金融危機が発生し、世界経済は大きく後退する局面でありました。

この世界的なリスク回避局面では、いわゆるキャリートレードの巻き戻し、すなわち為替売買の逆流が起こり、大きく円高に触れたため、円からの外貨投資は全般的に評価損を被ることとなりました。

下表は、先進国 10 通貨インデックスの推移を示したものですが、主要な為替レートと比較してもある程度の変動率に抑えられはしたものの、相応の下落を免れられなかったことがご覧頂けるかと存じます。

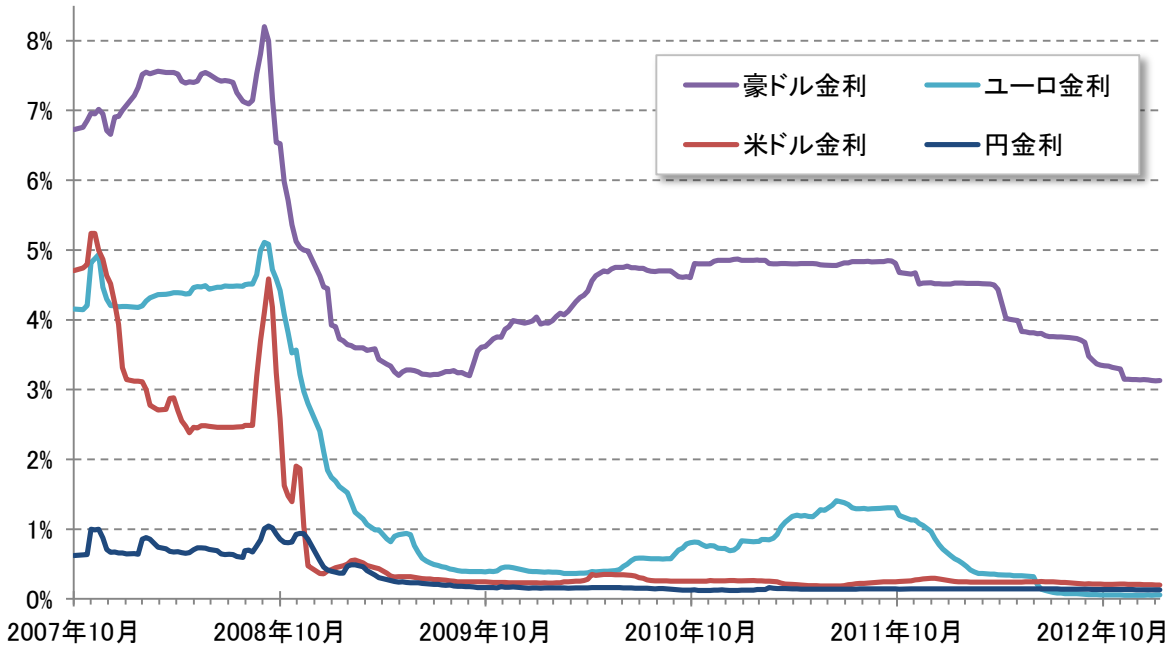


※ 先進国 10 通貨インデックスおよび各為替レートは比較のため当初 10,000 に規格化したものです。

※ 本ファンドは先進国 10 通貨インデックスに連動した運用を目指すものですが、実際の運用は必ず一致するものではなく、また各種費用がかかるため、トラッキングエラーが生じます。

また、そのような経済情勢を受けて、世界的な低金利が続いており、また今後も金融緩和の継続が見込まれる中、金利差を源泉とするキャリートレードを活用する本ファンドの運用戦略においては、見通しは決して明るいとは言えない状況です。

下表は、主要な通貨の短期金利ですが、実質的にゼロ金利に近い通貨が増え、また高金利通貨と低金利通貨の金利差も大きく縮小していることがご覧頂けるかと存じます。



※ 各通貨の金利は1ヶ月銀行間参考金利を参照しています。

このように、小規模な運用資産による運用効率悪化による資産目減りが進行し、それを凌駕するほどの運用益を期待するには厳しい見通しの中、このまま本ファンドの運用を継続することは受益者の利益にかなわないと考え、本ファンドは早期に終了することが望ましいとの判断に至った次第です。

誠に恐縮ですが、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

敬具